

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 23 日現在

機関番号：33923

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22730639

研究課題名（和文） ケアリング教育からシティズンシップ教育への展開の可能性

研究課題名（英文） A Study on the Possibility of Advance from Caring Education to Citizenship Education

研究代表者

伊藤 博美（ITO HIROMI）

名古屋経済大学・人間生活科学部・准教授

研究者番号：50410832

研究成果の概要（和文）：アメリカの教育哲学者ノディングズは、「ケアリング」という関係概念を鍵とした教育理論を1984年に提唱し、大きな反響を呼んだ。しかし『教育の哲学』（1998）以降、「批判的思考」を用いる市民の（シティズンシップ）教育へノディングズは重点を移したように見えた。「批判的思考」を、ケアする人にも求められるスキルとしてノディングズは捉えている。従ってノディングズはケアする市民の教育を志向するようになったと言えよう。

研究成果の概要（英文）：Following Noddings' s publication, *Caring* (1984), care and caring ethics received a major response in the field of educational philosophy. However, it seems that Noddings converted from caring education to citizenship education in her *Philosophy of Education* (1998). In Noddings' s theory, critical thinking is a skill needed for a carer or one-caring and is also required for educational training. Consequently, Noddings developed her educational theory with the goal of developing caring citizens.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	200,000	60,000	260,000
2011年度	300,000	90,000	390,000
2012年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	800,000	240,000	1,040,000

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育学、教育哲学

キーワード：ケアリング シティズンシップ 教育 道徳 批判的思考

1. 研究開始当初の背景

(1) 2008年3月に学習指導要領が改訂された。この改訂では、いわゆる愛国心教育や公民教育が重視されることとなった。しかし、道徳教育の内容の諸項目は、四つの領域に分けられているとはいえ羅列的であり、上記の新たな目標に向けた教育実践に際しては、哲学的構造化が求められる。こうした我が国の現代的状況における道徳教育とシティズン

シップ教育のカリキュラムや目的・目標・内容について、それぞれについては研究がなされているものの、両方を視野に入れた哲学的考察は多いとはいえなかった。

(2) 1980年代以降、ノディングズは学校教育の新たなモデルだけでなく、ケアの対象を構造化したカリキュラムを提示している。2000年代以降、社会政策や学校教育のあり方

へと彼女の理論は展開し、特に、学校教育で、シティズンシップ教育で求められるスキルとして批判的思考のスキルを育むことを提案している。こうした理論的展開について、ケアリングと批判的思考との関連は十分説明されていない。また、検討された研究も管見の限り見あたらない。

2. 研究の目的

(1) 我が国の道德教育に対して、ケアリングを教師—学習者のモデルとするだけでなく、そうしたケアリングのスキルを身に付けるためのカリキュラムを提示する哲学的根拠を提示する。

(2) 第二に、シティズンシップ教育において、ノディングズの提示するカリキュラムがどのように位置づけられるかを明らかにする。

3. 研究の方法

(1) モラル・ジレンマの要件を検討し、モラル・ジレンマ物語の作成を課題とした授業（道德教育の研究）実践から、要件を満たす物語作成の難しさ、「道德」の思想的側面に対する学生の理解を検討する。

(2) ケアの実践領域である福祉の教育について、福祉と教育の概念定義、福祉教育の歴史、福祉教育の実践例、福祉教育から福祉学習への展開について検討する。

(3) ノディングズの著作を対象に、ノディングズのアメリカにおける学校教育への批判をまとめ、ケアリング教育の中心概念とシティズンシップ教育の中心概念である批判的思考の関係、ケアの対象と批判的対象の比較、ノディングズのケアリング理論の展開について検討する。

(4) 教育理論においてケアおよびケアリング倫理が与えた影響について、J. R. マーティンやノディングズらの理論から検討する。また、2010年前後のアメリカのフェミニズム研究の成果における「依存」概念からのケアの見直しについて検討する。

4. 研究成果

(1) ノディングズは『ケアリング』（1984）で、道德教育に関連して「感情と思考との間で成立する形態の弁証法」を提唱している。しかし、我が国の道德教育の実践では情緒的側面が強調される一方、思考の側面からの道德教育は不十分である。そこで教職課程の授業において、モラル・ジレンマを題材にした教材（お話）づくりを通して思考の側面から道德性理解を図る実践を行い、「教職科目「道德教育の研究」におけるモラル・ジレンマの

お話づくり——教材としての物語づくりによる道德の理解——」において検討した。

モラル・ジレンマのお話として学生が作成してくるものには、5つの課題が含まれることが多い。イ）家庭環境がもたらす心理的葛藤、ロ）一見価値葛藤に見えるが、実際には弱い心と強い心の葛藤であるもの、ハ）悪を悪で補おうとするもの、ニ）意志決定する中心人物が明確でないもの、ホ）意志決定させる行動が明確でないものである。こうした問題点を、ノディングズが道德教育において重視する「対話」を通して学生は克服し、ケアの領域である医療や福祉、環境などを題材としたモラル・ジレンマのお話を作成することで、思想的側面を重視した道德性を理解した。この「対話」や「思考」にシティズンシップ教育への展開の手がかりがあると考えられる。

(2) 『子ども家庭のウェルビーイング』（2011）では、「子ども福祉教育」についてその来歴をまとめ、福祉を学び実践する主体として、子どもが高齢者や障害者の「育ちと暮らしを支えるケアの技能」を学んでいる実践に言及した。河村ちひろが主張するように、社会福祉従事者には、人間を全体としてとらえ、育ちと暮らしを支えるケアの技能が求められる。子どもたちが福祉を学ぶことで、福祉を実践する主体者として形成されていく。子どもたちが自らも、また福祉サービスの受け手も、ともに市民であり、町づくりの主体であると認識する機会として、福祉学習は求められている。このように、社会で主体的に活動する「市民」にケアの一領域である福祉の学習が求められていると考えられる。

(3)

① ノディングズは、「同一」に「対等」は還元されず、豊かな教育課程や学習のコースを通して子ども一人一人に等しくシティズンシップを備えることが、「対等」を意味すると主張する。そのため、同一カリキュラムにより平等な教育を提供するというリベラル・エデュケーションの方針をノディングズは批判し、『学校でのケアの挑戦』（1992）で代替案としてケアリングをテーマにした教育内容を編成し提示した。しかし、ケアリングという関係の成立条件にとられるあまり、また既存の教科の枠にとられまいとしながら抜け出せ切れていない部分もあり、さらにジェンダー的役割を女性に押しつけることへの批判に応じようとしたため、当初意図した、実際の生活からの教育内容の再編成には至らなかった。しかし感情に起点があり、私たちが道徳的にふるまうのを奨励する「批判的思考」の対象となるトピックを、実際の

生活で生じる問題から教育内容の代替案として『批判的レッスン』(2006)で提示し、それらの問題点を克服した。

② ノディングズによれば、ケアリングは思考を停止あるいは保留させる態度を許さない。なぜある慣習、ある徳、ある法律に私やケアされる人は違和感を覚えるのか、そこから批判的思考が展開され、ケアされる人のニーズに応える道徳のあり方とはどのようなものか、検討していくことになる。ノディングズが批判的思考を学校教育で育むべきスキルと考えたのは、以上の理由からである。また、ケアされることは人間誰にも不可避なことであることが明らかにされ、教育においては、誰もがケアするひとになれるようにすることが目標とされた。斎藤勉が指摘するように、ケアにはスキルが必要である。市民としてケアもできるひとへと育成することが、学校にも課されているとノディングズは主張し、『批判的レッスン』を著したと言える。

③ ノディングズは、人間という生物にとって完全な自律があり得ないという事実、赤ん坊が生き抜くにはケアが不可欠という他者依存的である原初状態という事実と、そのケアを母性本能から行われるものであるという事実(これを事実とするには議論があるが)を、積極的に受け止め、女性(母親)の多くが子どもをケア「している」という事実から、「本能的ケアリング」という原初状態を提示した。『母性的要素』は刺激的なタイトルであるが、「ケアリング」を、「もうひとつの」倫理ではなく、それまでの伝統的な倫理学と結びつけて捉え直した意欲作といえる。

(4)

① 「ケアリング」は、いつくしみ、世話をし、応答し、責任をもつという意味をもつが、これらを近代以降の学校教育では剥ぎ取ってしまったことが、現在の学校教育の問題状況の原点だと佐藤学は指摘している。

② 近代的な倫理思想に見いだされる正義・公的領域・自律的個人といった概念に対して、ケアおよびケアリング倫理は、ケア・私的領域・結びついている個人などの概念を提示し、教育理論における両者のかかわりが論じられてきた。ノディングズは、誰しものが社会で自己を実現することができ、それが職業的選択や日常生活を送るための、またシティズンシップを備えうる、またその価値のある人となるための豊かな教育課程が、真に平等なカリキュラムであり、すべての人が市民と見なされることが平等を意味すると主張している。またマーティンは、男女の区別な

く、再生産労働(『スクールホーム』では「家庭的事柄」)に誰もが携われるよう準備する学校のあり方を提案する。加えてマーティンは、「統一された」カリキュラムではなく、子ども達の中に存在するあらゆる社会的差異に敏感なアプローチから、「統一をめざす」カリキュラムを編成することを提案する。さらにフェミニズムはもう一步進めて、ケアされること、すなわち依存をネガティブにとらえず、ケアすること/されることを人間に不可欠な行為と捉えることにより、ケアするという人間にとって不可欠な行為を、等しく誰にでも社会が保障すべきと論じるまでに至ったと言える。ここから、学校という社会制度がケアを志向するカリキュラムを提供することの理論的後押しを得られたと言えよう。

③ 教育という文脈における正義とケアの二つの倫理の関係について、例えば争っているという関係にも「配慮」するのはケアの倫理だと思われる。そうした関係をそのままにしておかないことがケアの倫理であり、その意味でケアは、ケアする人とされる人がともに成長できる教育という文脈において、優位に求められると考えられる。ケアおよびケアリング倫理は、公的領域の学校と私的領域の家庭という捉え方の見直しを迫り、学校教育が目標とするモデルとそれを達成するためのカリキュラム、また、教師—子ども関係の変革を迫り、近代教育が失ったものを、改めて現代における教育に突きつけ、教師—子どものケアリング関係のなかで、ケアする市民の育成を目標に、統一を目指すカリキュラムを提供する学校教育を提案していると言える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

①伊藤博美、研究討議 教育における正義とケア—ケアおよびケアリング倫理が教育にもたらしたもの、教育哲学研究、査読無、第105号、2012、15—20

②伊藤博美、教職科目「道徳教育の研究」におけるモラル・ジレンマのお話づくり—教材としての物語づくりによる道徳の理解—、人文科学論集、査読無、第87号、2011、47—60

[学会発表] (計4件)

①伊藤博美、ノディングズによるケア倫理の捉え直し—*The Maternal Factor*を対象と

して——、教育哲学会第 55 回大会、2012 年 9 月 17 日、早稲田大学

②伊藤博美、ケアリングとシティズンシップ～ノディングズの理論を中心に～、中部教育学会第 61 回大会、2012 年 6 月 30 日、信州大学教育学部

③伊藤博美、研究討議（開催校企画）：教育における正義とケア、教育哲学会第 54 回大会、2011 年 10 月 15 日、上越教育大学

④伊藤博美、ノディングズの批判的思考とそのトピック、日本デュイ学会第 55 回研究大会、2011 年 10 月 2 日、関西学院大学

〔図書〕（計 1 件）

①星野政明（編集代表）、真鍋頭久、三友雅夫（編集）、伊藤博美他 28 名、金芳堂、子ども家庭のウェルビーイング、2011、103-106

〔産業財産権〕

○出願状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

伊藤博美、ネル・ノディングズの教育哲学——ケアリングとシティズンシップ——、伏木久始教授主催自主ゼミナールでの発表、2012 年 11 月 26 日、信州大学教育学部

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 博美 (ITO HIROMI)

名古屋経済大学・人間生活科学部・准教授
研究者番号：50410832

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者 ()

研究者番号：